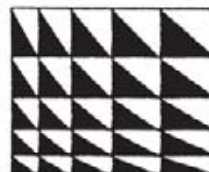


モノグラフ・高校生'85

vol. 16 進路選択と進路指導



目次

本報告書の要約	深谷昌志 石崎廣義 尾澤弘恒… 2 蒲生真紗雄 仁平正男
第I章 どんな進路を選択したのか	3
1. テーマ設定とサンプル構成	3
2. 進路選択の概況	4
第II章 高校3年生としての一年間をどう過ごしてきたか	11
1. この一年間の生活変化	11
2. 夏休みを境とした生活変化	16
3. 一年間の受験生活をふりかえって	18
第III章 どんな基準で進路を選んだのか	23
1. 進学関係の情報利用	23
2. 進路を決める際の基準	31
第IV章 高校生にとって進路指導とは	37
1. 進路指導のタテマエとホンネ	37
2. 進路をめぐる教師像	41
3. 進路選択についての考え方	44
4. 今後の進路と自己像	46
まとめに代えて	52
資料1 調査票見本および集計表	53
資料2 調査票 質問No.②分析項目	75

※おことわり 本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

本/報/告/書/の/要/約

第I章 どんな進路を選択したのか

① 不本意な進学が目につく

大学進学47%	} 56%	{ 第一志望 28%	
短大進学 6%			{ 第二志望以下 28%
専門学校進学 3%			
浪人43%	} 44%		
その他1%			

進学者は56%と半数を超えたが、第一志望へ進めたのは全体の28%で、進学者の5割にすぎない。(P.5表I-3、P.6表I-4)

② 進学見通しと結果

合格できそうだと思って受験した生徒でも望み通りに入れた者は、4分の1程度である。まして「ひょっとしたら入学できる」と思って受験しても、ほとんど合格する見込みはない。(P.9表I-8-⑦、⑧)

第II章 高校3年生としての一年間をどう過ごしてきたか

① 高3になって変わったこと

問題集をやる時間が長くなり、寝る時間が遅くなり始めた。(P.12図II-1)

② 高3の夏休み

予備校や図書館へ行く以外は、家で勉強している生活が続く。そうした生徒は望みの学校へ入る。(P.16表II-3)

③ 何をしておけばよかったか

参考書をよく読み、授業の子習や復習をもっとしておけばよかったと思う。(P.19表II-5)

④ 今何をしたいか

何でもよいから、友だちと雑談とか旅行とか、思いきって好きなことをしたい。(P.22図II-3)

第III章 どんな基準で進路を選んだのか

① 進学にあたって利用したのは

進学についての本を読み、そして友だちと話し合った。(P.25図III-1)

② 進学にあたっての意見の一致

1) 親と一致した、2) くい違った、3) 自分ひとりで決めた、がそれぞれほぼ3分の1ずつである。(P.30図III-6)

③ 進学にあたって考えたのは

仕事に役立つ知識を身につけ、資格をとりたい。それで学生生活が楽しければ申し分ない。(P.32図III-8)

④ 文系と理系

新しい知識や技術を身につけようとするのが理系、そして文系は人間関係に関心を持っている。(P.34表III-2、P.35表III-3)

第IV章 高校生にとって進路指導とは

① 高校の進路指導

「まあまあ」の33%を含めると、55%の生徒が高校の指導は熱心だったと答えている。(P.39図IV-1)

② どんな先生がよいか

がんばれと励ましてくれる先生がよい。禁欲的に受験しろと説教するタイプは嫌い。(P.42表IV-2、表IV-3)

第 I 章 どんな進路を選択したのか



1. テーマ設定とサンプル構成

(1) テーマ設定

戦後40年、急速に増加した大学進学希望者に対応して、大幅な大学拡充がはかられ、いわゆる「大学の大量化」現象が進展した。しかし皮肉なことに、入試をめぐる競争はかえってはげしくなっているのが現状であろう。それに伴って、かつては学問の府であった大学も、次第に就職のための登竜門としての色を濃くしたが、現在ではその機能も失われ、若者を四年間収容して、モラトリアムのための場を提供するのが大学の使命になりつつある。本調査では、こうした背景の中で、大学

・短大などへの進学希望者が、高校生活を通じて得た学力や興味、適性、将来の生活展望など、さまざまな条件をのみこみながら、どのようにして自分の進路を決定していくか。さらに進路を中心として、高校生活の中で、かれらが感じたこと、考えたことを聞き出して、進路選択のプロセスを明らかにしたいと考えた。そしてこれからの新しい進路指導のあり方、高校生活の改善策を見いだす手がかりとしたいとも思った。

以下、若干の調査仮説とサンプル構成についてふれておこう。

(2) サンプル構成

① 本調査の構成は巻末の調査票にくわしいが、高校生が「進路選択」にあたり、かれらが高校生時代に出会ったいろいろな体験や知識を取捨選択しながら、目指す進学先を決定していく有様を明らかにしようとした。

なお、高校生活の中に流れている友人関係、教師とのかかわり合い、学校生活など、三年間の高校生活を通して得た体験を手がかりとして、それらと進路選択との関連にも目を向けることにしてある。

② 調査対象：昭和60年3月卒業生(現役)

調査対象校：都立高校4校・共学

私立高校4校・男子校

計8校、737名

調査時期：昭和60年3月20日～4月10日の間

回収方法：担任教諭宛個別郵送法によった。
(回収率約25%)

調査にあたっての留意事項：進学についての正確なデータを求めたかったので、入学試験の終わる3月下旬を調査実施時期に定めた。

しかし、志望校へ合格できた者はともかく、失敗した生徒も少なくないと思われるので、調査にあたってさまざまな方法論を検討した。結局担任の教師が、調査目的にふれながらはやめに調査票を配布し、その後調査票を個別に担任へ郵送してもらった。答えにくい項目が多かったと思うが、率直に回答してくれた生徒諸君に、心から謝意を述べたいと思う。

2. 進路選択の概況

(1) 不本意な進学が多い

調査結果の考察に入る前に、まず生徒たちがどのような進路選択を行なったのかという実態についてふれておこう。コメントはとくに説明をつけ加える必要のあるもののみに限定し、あとはざっと目を通す形をとった。

サンプルは表I-1、表I-2、表I-3の通りで、公立と私立とがあいなかばしているが、試験の終わった後、表I-3のように、大学進学予定者は47%で、これに、短大を含めると53%と、高等教育進学者が半数を超える。そうした一方、浪人をする予定の生徒も4割を超えるので、合格と不合格とがあいなかばしている感じになる。

もっとも、大学へ進学するつもりといっても、すべての生徒が望み通りの大学へ進めた訳ではあるまい。そこで、第一志望かどうかをたずねると、表I-4の通りとなる。つまり

大学	47%
短大	6%
+専門学校	3%
↓	
進学者	56%
→	第一志望 28%
	第二志望 13%
	それ以外 14%

専門学校を含めて、56%の生徒が進学しているが、第一志望での合格者は28%と、進学者の半数で、残りは、心ならずの進学なのかわかる。したがって、これらの数値をサンプル全体の中に還元すると、以下の通りとなる。

全体	進学 56%	第一志望へ進学	28%
		第二志望以下へ進学	
	浪人		28%
			43%
			(その他1%)

こうした事情を反映して、生徒たちの進路

は、表I-5のようなちらばりを見せ、生徒たちがそれぞれの人生を歩き始めているのがわかる。そして、表I-6が示すように、生

徒のほぼ4割は、現在の自分に満足しているが、2割の不満層を含めて、6割の生徒は、現在の自分に満足感を持ってないている。

表I-1 サンプル構成

——調査対象校の内訳——

学 校	人 数 (名)	割 合 (%)	
公 立	A	56	7.6
	B	96	13.0
	C	167	22.7
	D	46	6.2
私 立	E	82	11.1
	F	35	4.8
	G	157	21.3
	H	98	13.3
計	737	100	

表I-2 性別(女子は公立のみ)

(%)

男 子	72.1
女 子	27.9

表I-3 現在の見通し

——半数が合格——

(%)

	大学進学	短大進学	専門学校へ進学	就 職	浪 人	そ の 他
A	33.9	13.2	13.2	5.7	30.2	3.8
公 立	B	55.2	10.4	0.0	0.0	34.4
	C	64.8	5.6	1.9	1.2	25.9
	D	28.3	32.6	17.4	8.7	13.0
	E	43.7	0.0	1.3	0.0	55.0
私 立	F	57.1	0.0	0.0	0.0	42.9
	G	32.9	0.0	1.3	0.0	65.8
	H	46.4	0.0	0.0	0.0	52.6
	全 体	46.9	5.7	2.9	1.2	42.7

表 I - 4 第一志望かどうか
 —第一志望合格は28%—

(%)

	第一志望 合格進学 (含む推薦)	第二志望 合格進学 (含む推薦)	第三志望 合格進学	第四志望 合格進学	不合格の ため専門 学校進学	合格辞退 で 浪 人	不合格で 浪 人	未 定
A	32.7	10.9	12.7	5.5	3.6	0.0	29.1	5.5
公 立 B	33.0	12.8	8.5	10.6	0.0	4.3	30.8	0.0
C	36.7	18.0	6.8	8.1	0.6	1.9	23.6	4.3
D	38.0	28.6	9.5	4.8	4.8	0.0	14.3	0.0
E	21.3	10.0	7.5	5.0	0.0	8.8	47.4	0.0
私 立 F	29.4	11.8	5.9	5.9	2.9	2.9	38.3	2.9
G	14.2	7.1	5.8	3.2	1.3	9.7	58.1	0.6
H	30.2	9.4	1.0	4.2	0.0	8.3	43.8	3.1
全 体	28.2	12.7	6.7	6.0	1.1	5.3	37.9	2.1

表 I - 5 現在の進路
 —それぞれの人生が始まる—

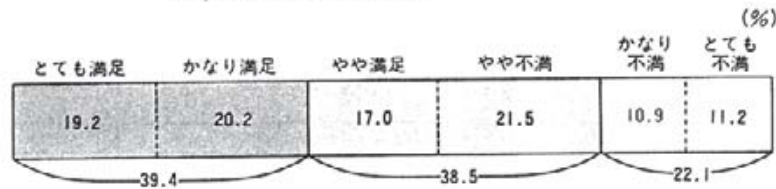
(%)

区 分	公 立 高	私 立 高	全 体
1. むずかしい国立大学へ入学	4.1	3.7	3.9
2. まあまあの国立大学へ入学	10.3	7.3	8.8
3. やさしい国立大学へ入学	1.5	2.3	1.9
4. むずかしい私立大学へ入学	17.4	16.3	16.8
5. まあまあの私立大学へ入学	16.7	11.5	14.1
6. やさしい私立大学へ入学	5.3	3.7	4.5
7. 短大へ入学	10.6	0.0	5.2
8. 専門・専修学校へ入学	5.0	0.3	2.6
9. むずかしい予備校へ入学	9.4	25.8	17.7
10. まあまあの予備校へ入学	9.4	20.3	15.0
11. 就 職	2.6	0.0	1.3
12. 家事に従事	1.2	0.6	0.9
13. 未定 (その後浪人の可能性つよい)	6.5	8.2	7.3

(注) ここで言う「むずかしい」「まあまあ」「やさしい」は生徒自身の判断によるもので、P. 8 表 I - 8 ③④のランク付けとは違う。

表 I - 6 現在の満足感

—満足感を持てるのは4割—



(2)進学見通しと結果

全体としては、上記の通りだが、もう少しこまかく、受験の過程を追ってみることにしよう。表 I - 8 のように、生徒は1人平均4校を受験している。それと同時に、予想された通り、私立しか受けないといういわゆる共通一次離れの傾向が、表 I - 8 - ②にも表れており、半数の生徒は私立校しか受験しないでいる。

なお、進路選択にあたっての一貫性は、表 I - 8 - ⑤からうかがえるように、ほぼ一貫している。本サンプルの場合、進学校といわれる高校を中心に協力を求めたので、進路選択にあたって、生徒たちが、それぞれ自主的な判断力を示しているのもであろう。また、学部または学科をきめてランクの違ういくつかの大学に出願という一貫受験タイプが主流をしめているのも目につく。この傾向は理系で目立っているが、理系は専門性が高く、学科間の互換性が乏しいためであろう。文系では「まちまち」の割合がかなり高いが、それは文系が、互換性が高く、将来の職業選びに大差がないところからきているのであろう。

もちろん、進路を決めるにあたっては、ある程度の見通しをたてて、受験先を選ぶのであろう。そこで、そうした見通しと実際の姿との関連を、表 I - 8 - ⑦～⑨に示した。これらを要約すると、以下の通りとなる。

① 入れるだろうと思っていた者でも、不合格者が3割に達する。現役なので、見通しが甘かったとも思われるが、そのような、き

びしさを伴うのが入試ともいえよう。

② 入れないだろうが、ひょっとしたら入るかもと思い受験したとしても、表 I - 8 - ⑧のように、合格者は、推薦を含めても8%で、大半の生徒は不合格である。残念ながらハブニングがおこらないのが入試という感じがする。

さらに、入試前を見通しを軸として、受験校との関連を、以下のようにカテゴリーしてみた。

学力と比べ		
A ぜったい入れる	慎重型 37%	
B たぶん入れる	積極型 17%	どこでも型 7%
C 少しむずかしい		
D とてもむずかしい	夢追い型 39%	
	受験した学部一貫している	受験した学部一貫していない

くわしい結果は、表 I - 8 - ⑩にあるが、全体の4割は慎重に進路を選択しており、夢追い型にしても、進路の選択は一貫しているのであるから、ただ目標を持たずに受験した生徒は7%にすぎない。そうした意味では、合格、不合格と運命が分かれたといっても、生徒たちは、われわれが思っている以上に慎重に進路を選択したような印象を受ける。

表 I - 7 高校 3 年生のときの成績

(%)

教科	成績	上	中の上	中	中の下	うしろ
英 語		15.3	27.5	29.6	16.3	11.3
国 語		11.4	29.1	39.2	14.7	5.6

表 I - 8 受験結果について

① 受験校数について

— 平均は 4 校 —

(%)

出願せず	1 校 (含む推薦)	2 校	3 校	4 校	5 校	6 校	7 校	8 校	9 校
5.0	16.6	13.4	16.7	18.6	15.2	10.0	2.8	1.4	0.3

② 志望大学—設置、制区分別

(%)

	国立のみ	国立+私立	私立のみ	短大のみ	私立+短大	国立+短大	その他
全 体	5.8	36.9	46.2	3.9	3.7	0.4	3.1
公 立	7.3	30.0	39.8	8.2	7.6	0.9	6.2
私 立	4.0	43.5	52.2	0.0	0.0	0.0	0.3

③ 国立難関大学への受験の有無と合否結果

— 国立離れが目につく —

(%)

	合 格	不 合 格	受験せず
公 立	7.7	15.4	76.9
私 立	3.8	15.4	80.8
全 体	5.6	15.4	79.0

(国立難関大学)

旧制帝大の国立大学、東京工業大学、
一橋大学、お茶の水女子大学

④ 私立難関大学への受験の有無と合否結果

(%)

	合 格	不 合 格	受験せず
公 立	19.5	30.0	50.5
私 立	15.8	47.0	37.2
全 体	17.5	38.9	43.6

(私立難関大学)

早稲田大学、慶応義塾大学、
上智大学、東京理科大学、
国際キリスト教大学

⑤ 志望学部・学科について

— ほぼ一貫している —

(%)

	理系一貫	理系 まちまち	文系一貫	文系 まちまち	文・理 混合	これ以外 で一貫	これ以外で まちまち
全 体	37.9	7.2	28.3	20.5	2.7	3.3	0.1
公 立	23.7	6.1	38.6	21.9	2.7	(略)	(略)
私 立	50.5	8.1	19.2	19.1	2.7	(*)	(*)

⑥ 志望学部・学科動向

(%)

	理 工	法・政	文・外語	経・商	教 育	医・薬	農・水	家 政	芸 術
全 体	37.8	11.0	21.1	14.9	2.6	5.7	3.4	1.6	1.9
公 立	21.1	9.4	34.9	13.3	3.9	6.9	3.9	3.3	3.3
私 立	53.1	12.5	8.7	16.3	1.4	4.6	2.9	0.0	0.5

⑦ 合格見込みと合格との関連

— 入れるつもりでも失敗が3割 —

(%)

合格率	100% (含む推薦)	99~80%	79~60%	59~40%	39~20%	19~1%	0%	AとBの 判定なし
公 立	30.2	1.2	8.5	10.1	7.0	0.0	21.0	22.0
	50.0				7.0		21.0	22.0
私 立	19.2	1.0	3.7	8.6	7.8	0.0	42.4	17.3
	32.5				7.8		42.4	17.3
全 体	24.4	1.1	6.0	9.3	7.4	0.0	32.3	19.5

$$\text{(受験前の見通しのA-Dのうち、AあるいはBのつもりで受けた大学の合格率)} = \left(\frac{\text{AとBの合格数}}{\text{AとB判定数}} \right)$$

⑧ 合格見込みの薄さと合格

— バブニングはおきない —

(%)

合格率	100% (含む推薦)	99~80%	79~60%	59~40%	39~20%	19~1%	0%	CとDの 判定なし
公 立	11.9	0.9	3.7	7.6	8.9	0.0	47.0	20.0
	24.1				8.9		47.0	20.0
私 立	4.3	0.0	1.5	2.7	4.9	0.3	73.1	13.2
	8.5				5.2		73.1	13.2
全 体	7.9	0.4	2.4	5.0	6.7	0.1	61.0	16.5

$$\text{(受験前の見通しのA-Dのうち、CあるいはDのつもりで受けた大学の合格率)} = \left(\frac{\text{CとDの合格数}}{\text{CとD判定数}} \right)$$

⑨ 受験前の予想合格率 $\left(\frac{A+B \text{ 判定}}{A+B+C+D \text{ 判定}} \right) \times 100$

(%)

合格率	100%	99-80%	79-60%	59-40%	39-20%	19-1%	0%
公立	21.5	5.8	14.7	20.6	13.2	2.1	22.1
私立	12.5	7.9	17.9	23.7	18.2	1.4	18.4
全体	16.7	6.9	16.4	22.4	15.8	1.7	20.1
推薦を除いた場合 (100%の分から差引いて計算)							
公立	8.2	6.8	17.2	24.0	15.4	2.5	25.9
私立	2.1	8.8	20.0	26.7	20.3	1.5	20.6

(注) $\left\{ \begin{array}{l} A: \text{入れると思っていた} \\ B: \text{なんとか入れると思っていた} \\ C: \text{入るのは少しむずかしいと思っていた} \\ D: \text{とても入れそうもないと思っていた} \end{array} \right.$

⑩ 合格と不合格について (短大、専門学校も含む)

(%)

	推薦合格	一般合格	不合格
公立	13.9	56.9	29.2
私立	10.7	37.5	51.8
全体	12.2	46.9	40.9

⑪ 志望決定のしかたによるタイプ (英語の学力と志望校の関係)

(%)

	積極型	慎重型	夢追い型	どこでも型
公立	38.8	25.5	31.5	4.2
私立	34.6	9.3	45.9	10.2
全体	36.6	17.0	39.1	7.3

第II章 高校3年生としての一年間を どう過ごしてきたか



1. この一年間の生活変化

(1) 高2とくらべ、変わったところ

ここでは受験をひかえた一年間をふりかえってもらい、高3生の生活実態の一端をとらえることにしたい。図II-1は、1・2年時とくらべた生活変化の幅をとらえたものである。多くの生徒は、「寝る時間が午前0時をすぎる日が多くなった」(57%)ようである。そして夜遅くまでの時間の利用内容はというと「学校の授業の予習・復習の時間」の増加はさほどでもない(39%)。しかし、「受験用の問題集や参考書をやる時間」が断然ふえて

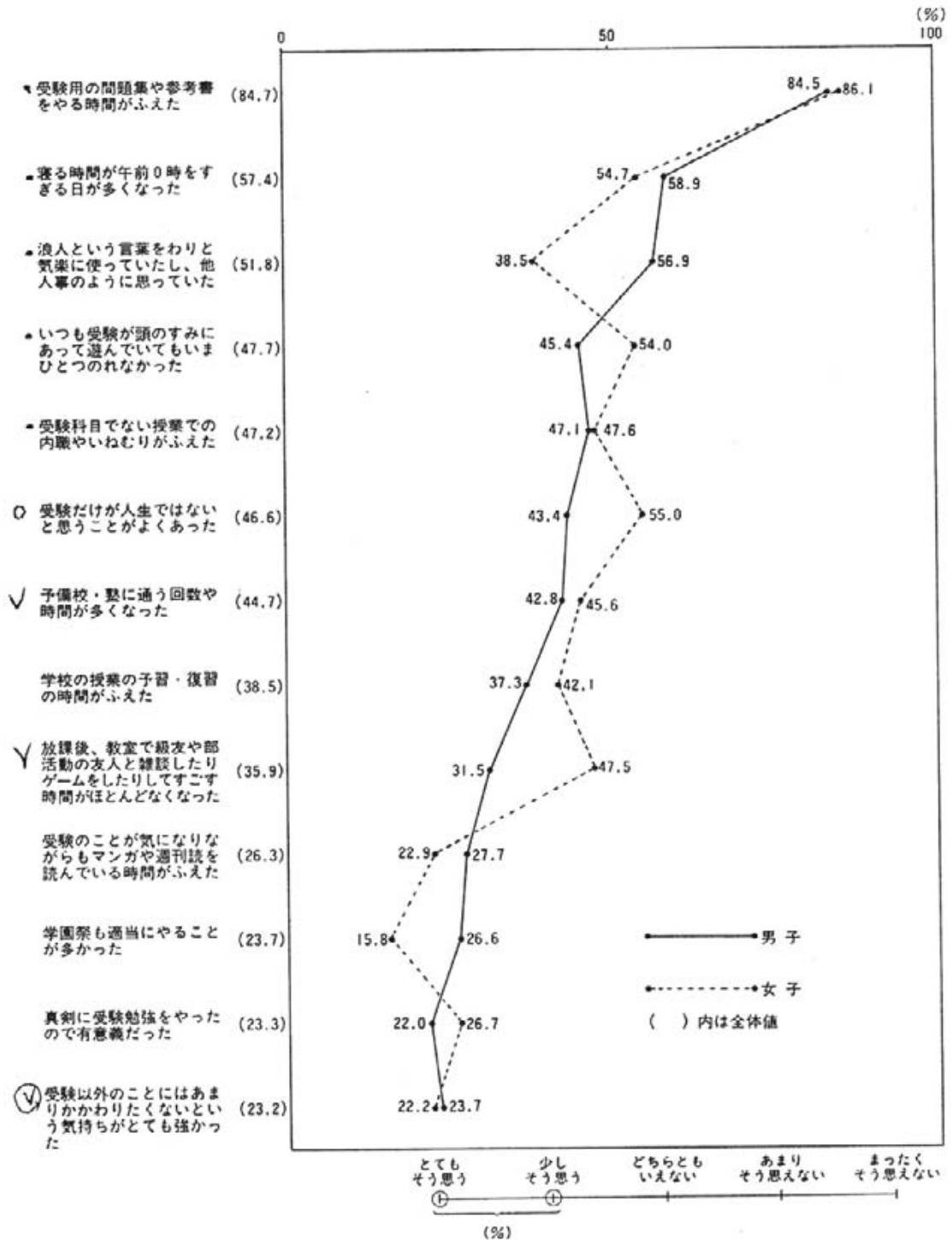
いる(85%)ことから明らかなように、高3になると受験の影が生活のリズムにしのびより始める。

さらに、「受験科目でない授業での内職やいねむりがふえた」(47%)という消極的授業態度や、「予備校・塾に通う回数や時間が多くなった」(45%)といった受験技術を積極的に身につけようという態度も目につく。

しかし、それでは受験一辺倒かという必ずしもそうではない。受験以外に対しては、かなり消極的な態度を示すかと思っていたが、「学園祭も適当にやるが多かった」や、

図II-1 高3生の生活変化

——問題集にとりくむ時間がふえた——



「受験以外のことにはあまりかわりたくないという気持ちがとても強かった」という項目には6割近くの生徒が否定的な回答をよせている（「あまり」・「まったく」そう思えない割合は、「学園祭」57%と「受験以外」59%を占めている）。筆者を含め現場の教師から見ると消極的になったと思われる点が、予想以上に生徒たち自身としては積極的に取り組んだつもりであった点は注目に値する。

そうした一方、調査対象者の43%が浪人したという現実のなかで「浪人という言葉をわりと気楽に使っていたし、他人事のように思っていた」（52%）生徒が5割を超えていたのは当然かもしれない。そして約半数の者は、「いつも受験が頭のすみにあって遊んでいてもいまひとつのれなかった」（48%）反面、「受験だけが人生ではない」とも思っていたり（47%）するのである。つまり、いつも受験のことが頭から離れず受験勉強の時間もふやしたが、受験だけがすべてではないという気持ちもあって、両者の間でゆれ動いていたのが、高3というこの一年ではなかったのだろうか。

性別では、浪人という言葉が気楽に使っていた割合が女子に低い（女子39% < 男子57%、男女差18%）のが顕著な差であるが、これは女子に浪人をさせてくれないという風潮が依然として強いことの反映ではないだろうか。

また、そのためこの一年間にかげざるをえないという気持ちの投影が、受験だけが人生ではない（女子55% > 男子43%、男女差12%）と思いつつも、いつも受験のことが頭から離れず（女子54% > 男子45%、男女差9%）、「放課後、教室で級友や部活動の友人と雑談したりゲームをしたりしてすごす時間がほとんどなくなった」（女子48% > 男子32%、男女差16%）という項目に女子の方が高い数値を与える傾向をもたらしている。

表は省略したが、進学先別に①予備校・塾に通う回数や時間が多くなった、②学校の授業の予習・復習の時間がふえたの項目の比率を比較すると、以下のような結果が得られた。

	国公立大入学者	予備校入学者
① 在学中に予備校の講習などを利用	36%	52%
② 予習・復習	48%	37%

△ ①より②の割合が大きい
▽ ②より①の割合が大きい
○ は属性別クロス中最大値

つまり、予習や復習をした生徒が入学し、予備校の講習などへ行った生徒の合格率は決して高くはない。したがって、筆者を含め現場の教師が常日頃、口をすっぱくして言っている「予備校へ行くこともさることながら、日常の授業を大切にすることが受験勉強に結果的につながっているのだ」ということを、この数値は如実に物語っているといえよう。これは教師の身びいきな読みとりであろうか。

(2) 受験勉強の意味

ところで、本調査対象と同様、本年(60年)3月卒業した生徒のうち、進学希望者を対象として昨年の6月末から7月末にかけて調査したデータによると、「受験勉強に意義を感じている」と回答した生徒は62%にのぼっている（日本リクルートセンター、高校生の大学受験に関する調査『受験地獄って何ですか？』昭和59年11月8日刊行）。ところが、今回の受験が一段落した時点での同趣旨の問いかけには23%しか意義を感じていない。

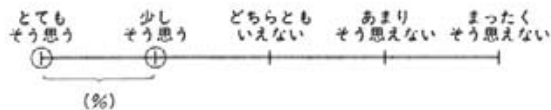
この点をもう少し考えるために属性別に見たのが表II-1である。歴然としていることは、第一志望合格進学者、国公立大学入学者、受験結果に「とても」・「かなり」満足している者がいずれも3割以上が受験勉強に意義を感じているのに対して、浪人した者、短大・専門・専修学校入学者、受験結果に「とても」・「かなり」不満な者のグループ（これが多数派である）では2割に満たないのである。つまり、好結果を得た者は有意義だったと考えられるが、そうでなかった者にとってはとても有意義だったとはいえないのは至極当然といえよう。昨年7月の段階での高い数値については、まだ結果は出ていない時点であり、今後の可

表II-1 受験勉強は有意義だったか

(%)

属 性		項 目	真剣に受験勉強をやったので 有意義だった
進学・浪人別		第一志望校合格進学	37.8
		第二志望以下で合格進学	24.2
		合格したが浪人	7.9
		一つも合格せず浪人	14.4
進学先別		国公立大入学	35.0
		四年制私立大入学	26.8
		短大・専門・専修学校入学	18.9
		予備校入学	14.9
受験結果		とても・かなり満足	32.8
		やや満足	16.4
		やや不満	17.3
		とても・かなり不満	16.9

○=各属性中の最高値



能性にも期待できる部分があること、かつみんなが経験してきたのだから受験勉強は有意義だという受験勉強進行中の意識とが増幅されたためのものであったといえよう。

(3) 受験にあたり利用したもの

次に生徒たちは、この一年間で受験のためにどのようなものを利用したのだろうか。この点を調べたのが表II-2である。この表は実際に利用した生徒の割合を示したものである。校内の補習や予備校の利用は夏期講習が中心であり、(校内53%、予備校45%)、通信添削や塾は週に1-2日(通信添削75%、塾56%)利用が多数を占めている。校外模試を1回も受けなかった者はごくわずか(3%)にすぎず、多くの生徒が5回以上(57%)は受

けている。3年生のはじめの4月から、ほぼ一か月半に1回の割合で校内か外部の会場で受験していたことになる。

それでは、それらは実際の受験に役立ったのであろうか。この点を問いかけたのが図II-2である。高い評価を与えているのは模試(63%)と予備校(58%)と校内の補習(52%)の順位である。これらは自分でこつこつ調べてやるという自力的学習よりも、課題や問題を与えられて解くという他力的学習だが、模試の場合、結果を参照しながら受験先を決めていったことが、評価の高さをもたらしたのであろう。

性別では、予備校以外はすべて女子のほうが高い評価を与えている。また女子は予備校より校内の補習のほうに、高い評価を与えて

表II-2 高3生の予備校などの利用状況

——模試は数回受けた——

(%)

項目 \ 尺度	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	春期講習	夏期講習
予備校	8.6	16.3	23.7	6.2	45.2
補習(校内の)	1.9	5.9	35.5	4.0	52.7
塾	4.4	16.9	56.2	3.1	19.4
通信添削	11.8	13.3	74.9		
ラジオ講座	47.1	15.0	37.9		

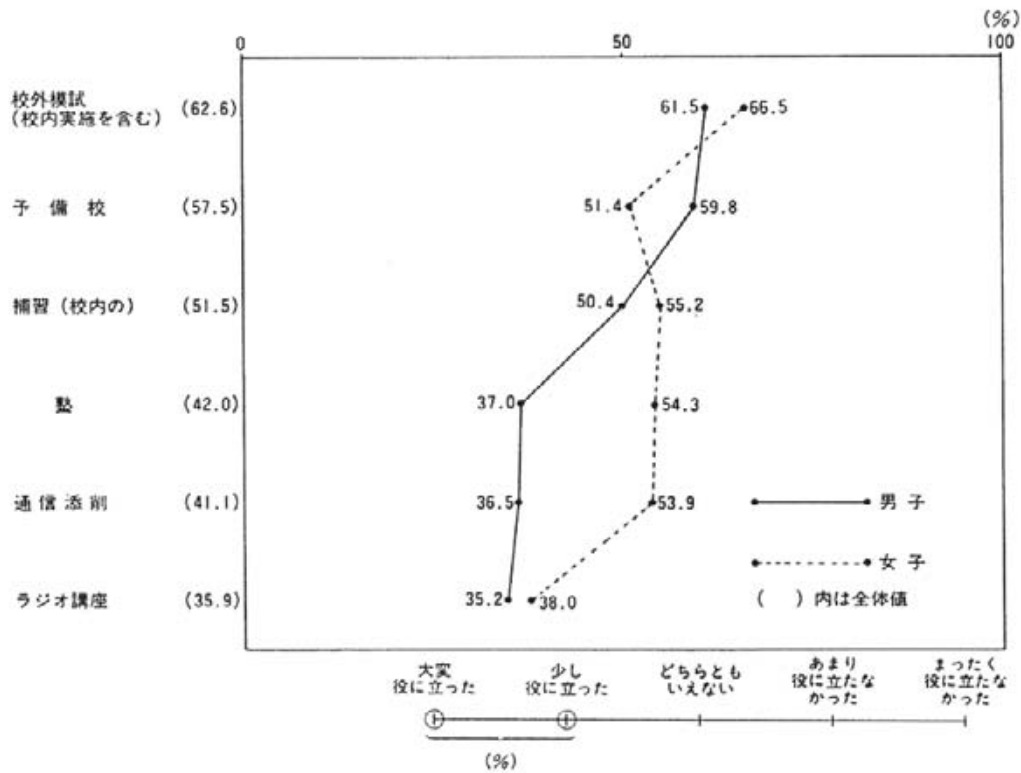
(注) 利用した生徒の割合

(%)

項目 \ 尺度	0回	1~2回	3~4回	5~6回	7回以上
校外模試 (校内実施を含む)	2.9	12.4	27.7	27.9	29.1

○ 図II-2 予備校などはどれだけ役立ったか

——模試は役立つ——



いる。筆者の行なった補習への参加状態などから類推しても、補習に参加する割合が女子に多く、また、授業でも常日頃接していると

いう人間的なつながりを好む傾向が女子に多いことに起因しているのではないだろうか。

2. 夏休みを境とした生活変化

(1) 高3生の夏休みの生活

受験生にとって3年時の夏休みは、1・2年時と違って受験をひかえて最も有効に利用できる時期である。受験生を見ていると、夏休みを境にして変化する生徒たちを見かけることが多いが、かれらはどのようにこの時期を過ごしたのだろうか。表II-3は、1・2年時の夏休みと比較してどう変化したかを答

えてもらったものである。3年時が多かったのが「家での勉強時間」(81%)「予備校や塾や補習へ行った回数」(63%)「図書館に通った回数」(46%)の3つであるのは、受験をひかえた3年生としては当然といえば当然である。しかし、「受験以外の読書時間」が、「1・2年時と同じ」であった者を加えると54%に及び、受験一色ともいえない。さらに「海水浴やプールへ行った回数」も、1・2

表II-3 高3生の夏休みの生活

——勉強時間がふえた——

(%)

項目	尺度	3年時が多かった	1・2年時と同じ	1・2年時が多かった	まったくない
家での勉強時間		81.1	13.6	2.6	2.7
予備校や塾や補習へ行った回数		63.4	9.7	5.3	21.6
図書館に通った回数		46.3	11.4	6.3	36.0
受験以外の読書時間(マンガ、週刊誌は除く)		13.7	40.4	33.0	12.9
		54.1			
海水浴やプールへ行った回数		8.1	16.8	37.7	37.4
		24.9			
友人と旅行やハイキングなどをした回数		4.5	13.2	34.4	47.9
		17.7			
町内の祭りや盆踊りなどに参加した回数		3.0	13.6	18.7	64.7
		16.6			
家族と旅行した回数		2.5	9.6	23.0	64.9
		12.1			
アルバイトの量		3.1	4.0	19.6	73.3
		7.1			

年時と同じであった者を加えると25%となり、4人に1人は結構夏休みを楽しんでいる感じがする。

一方で、この夏次のようなことをまったく経験しなかった生徒が「家族旅行」で65%、「友人との旅行やハイキング」で48%、「海水浴やプール」で37%もいるということから考えると、受験生の平均的な活動範囲は、自宅と図書館と、学校や予備校とを結ぶ線からそれほど遠くへ広がっていないことが理解できよう。また、「町内の祭りや盆踊りなどに参加した回数」（まったくない65%）の数値だけから類推するのはやや乱暴かもしれないが、地域社会との結びつきは概して希薄といえよう。さらに「アルバイトをまったくしていない」者が73%にのぼるということは、本調査対象校の多くが進学校であるということと関連するのであろう。

性別では、やや女子のほうが家族と旅行した回数（女子17%>男子10%、3年時が多かった+1・2年時と同じ）や町内の祭りに参加した回数（女子24%>男子14%）が多い。女子のほうが家族や地域とのかかわりが強いからと考えられる。

また、進学先別でみると、短大・専門・専修学校に進学した生徒は、それほど進学先がむずかしくないためか、この夏休み町内の祭りや盆踊りに参加（32%）し、海水浴やプールへ行き（30%）、家族旅行もし（23%）、アルバイトもし（15%）た割合が、他の属性に比して最も高い数値を示している（割合は3年時が多かった+1・2年時と同じ）。一方、家での勉強時間（70%）と予備校や塾や補習へ行った回数（53%）は最も低い数値（3年時が多かった数値）を示している。短大・専門・専修学校に進学した、あるいはせざるをえなかった生徒たちは、平均的受験生より勉強時間は少ないが、生活の活動範囲は広がったといえよう。逆にいうと、こうした活動のある程度セーブしないと受験に勝ち残れないという現実を示しているといったら、短大・専門・専修学校に進学した生徒たちに酷であろうか。

(2)夏休み後の意識変化

では、夏休みを過ごした生徒たちは二学期以降どのような意識で学校に通うようになったのだろうか。表II-4は、今までの経験からよく見かける例を集めて生徒たちに問いかけたものである。やはり「このままでは現役で合格できないのではないかという不安感がありました」と答えている生徒が過半数に達しているのは、われわれ教師の経験実感と合致している。夏休みの勉強時間をふやしたにもかかわらず思ったほど成果があがらなかった、さらに予備校での夏期講習に参加して浪人生ともまれて力の差を見せつけられたなどが原因となつてのあせりなのであろう。そのため余裕がなくなって「受験科目でない授業での内職やいねむりがふえ」てくる（39%）。この数値は既出の図II-1の同項目（47%）より低い。はじめから内職やいねむりをしている者は、夏休み後とくにふえたという意識はあまりないのであろう。つまり、2学期からの実際の内職やいねむりは始める生徒はこの数値以上になる。

また、5教科7科目の国公立志望から負担の少ない3教科の私立志望に転ずる者がふえる（36%）。そして、むずかしそうな入学試験を受けずに現在の成績で入れそうな推薦入学に応募できないかと考える者（36%）が目につくなど、生徒たちのやや弱気になっている姿がここからは読みとれよう。

つぎに属性別に着目すると、第一志望合格進学者に国公立志望から私立志望に転ずる者（41%）や推薦入学に応募できないかと考えるようになった者（46%）が多いのは、安全志向の生徒が多かった表れであろう。

また、「このままでは現役で合格できないのではないかという不安感がありました」者が一つも合格せず浪人した者（現役での合格が不安61%）や予備校に入学した者（61%）やタイプ別のどこでも型（65%）といった受験に失敗した層に多く、受験科目でない授業での内職やいねむりがふえていったのに対して、第

○ 表II-4 高3生の夏休み後の意識変化

—不安感がありました—

(%)

項目	属性	進学・浪人別					進学先別				タイプ別			
		全体	合格第一志望校	下第二志望校	浪人合格したが	せずも浪人合格	国公立大	四年制私立大	専修大・専門	予備校	堅実型	慎重型	夢追い型	どこでも型
○ このままでは現役で合格できないのではないかと不安感がありました		55.0	53.5	44.5	54.0	61.1	48.5	55.3	50.0	61.3	55.6	49.6	56.8	64.7
○ 受験科目でない授業での内職やいねむりがふえた		39.0	36.9	40.5	32.4	41.5	33.6	43.4	38.4	37.0	38.4	38.4	40.6	33.3
○ 国公立志望から私立志望に転ずる級友がふえた		36.3	40.9	32.7	35.1	37.9	36.6	39.4	17.3	39.6	36.8	38.5	35.4	33.3
○ 推薦入学に応募できないかと思うようになった		35.8	45.9	36.5	29.7	30.1	32.7	45.3	40.4	29.5	44.0	34.2	29.7	32.0
○ 担任と個人面談や三者面談をする機会がふえた		26.1	28.8	23.7	43.2	23.7	30.7	27.6	17.3	26.1	30.8	20.6	23.4	35.3
○ 二学期からの授業への集中度がました		25.1	27.8	25.1	21.6	24.8	27.7	26.4	26.9	23.9	29.7	27.3	20.8	19.6
○ 第一志望校のランクを下げようと思った		25.0	27.9	22.1	32.4	24.7	25.7	25.0	25.0	24.3	23.2	23.9	26.2	33.3
○ 志望校選択について担任から得る道路情報にあまり期待しなくなった		21.6	18.2	18.4	21.6	27.8	21.8	16.5	30.8	27.4	19.6	15.4	24.9	27.5

○ 各属性中の最高値
 ~~~~~ 各項目中の最低値

とてもそう思った    少しそう思った    どちらともいえない    あまりそう思わなかった    まったくそう思わなかった  
 ⊕-----⊕-----|-----|-----|-----|-----|  
 (%)

一志望校合格進学者(28%)や国公立大学入学者(28%)やタイプ別の堅実型(30%)といった概して受験に好結果を得た層の中に「二学期からの授業への集中度がました」と答えている者が多い。この点は日常の授業態度と

受験結果がおおむね関連していると感じている筆者らの実感を数値で実証したといえよう。しかし、そうしたタイプの生徒は授業に集中できるだけ集中力のある子で、これを一般化するのにはむずかしいのかもしれない。

### 3. 一年間の受験生活をふりかえって

受験が一段落した今、生徒たちはどのような点を反省しているのだろうか。以下の2点について考察を加えてみた。

#### (1) 受験のためになすべきことは？

表II-5は、「この一年間をふりかえって、受験のためにやっておけばよかったと思って

いることはありますか」という質問の集計である。過半数の生徒が思っているのは、「受験用の問題集や参考書をもっとやっておけばよかった」(70%)と「学校の授業や補習をもっと熱心に聞いておけばよかった」(53%)の2点に集中している。そして他の項目は3割に満たない。

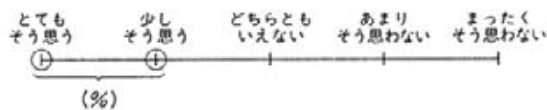
表II-5 受験のためにすべきことは何か

—問題集をやり、授業を聞いておけばよかった—

(%)

| 項目                               | 属性   |        | 進学・浪人別 |         |         |         | 進学先別      |      |              |                   |      |
|----------------------------------|------|--------|--------|---------|---------|---------|-----------|------|--------------|-------------------|------|
|                                  | 全体   | 性別     |        | 合格第一志望校 | 下第二志望以下 | 浪人合格したが | 一つも合格せず浪人 | 国公立大 | 大入学<br>四年制私立 | 専修大・<br>短大・<br>専門 | 予備校  |
|                                  |      | 男子     | 女子     |         |         |         |           |      |              |                   |      |
| 受験用の問題集や参考書をもっとやっておけばよかった        | 70.4 | 69.0 < | 73.9   | 61.6 <  | 72.1 <  | 73.7 <  | 75.2      | 65.3 | 65.1         | 81.1              | 76.6 |
| 学校の授業や補習をもっと熱心に関しておけばよかった        | 52.7 | 52.0 < | 54.2   | 46.5    | 57.9    | 57.9    | 52.9      | 41.5 | 53.3         | 60.4              | 56.6 |
| 模試をたくさん受けておけばよかった                | 28.2 | 29.6 > | 24.3   | 23.3    | 22.8    | 23.7    | 36.4      | 17.8 | 28.7         | 27.0              | 34.2 |
| 自分の適性をもっとしっかりと時間をかけて見きわめておくべきだった | 24.6 | 24.2 < | 25.7   | 25.2    | 22.8    | 18.4    | 25.7      | 18.8 | 26.7         | 28.9              | 21.0 |
| 予備校や塾にもっと通ってればよかった               | 22.7 | 24.9 > | 16.5   | 15.2    | 16.3    | 34.2    | 31.1      | 19.8 | 16.8         | 22.6              | 31.4 |
| 推薦入試についてもっと調べておけばよかった            | 22.4 | 22.7 > | 22.2   | 16.2    | 25.4    | 15.8    | 25.4      | 17.8 | 20.5         | 34.7              | 25.0 |
| 担任と受験校選択についてもっと話し合っておけばよかった      | 12.1 | 12.0 < | 12.7   | 9.1     | 17.9    | 10.6    | 11.1      | 8.0  | 13.1         | 18.8              | 9.3  |
| 偏差値をもっと研究しておけばよかった               | 8.2  | 7.8 <  | 9.6    | 3.5     | 8.4     | 10.5    | 11.4      | 8.0  | 5.8          | 11.5              | 10.1 |

○=各属性中の最高値



図II-1ですでにみているように、受験用の問題集や参考書をやる時間は、1・2年時とくらべてこの一年間最もふえたと思われる項目であるが、多くの生徒にとっては不十分であり、もっとやっておくべきだったと反省の気持ちを伴っているように見える。

ついであげられているのが「予備校や塾にもっと通ってればよかった」(23%)などだが、これら学校の外に目を向けるのではなく、その倍以上の生徒が学校の授業や補習と答えている点はどう考えるべきだろうか。今までみてきたように、予習・復習の時間をさほどふやさず(図II-1参照)、受験科目でない授業での内職やいぬむりがふえ(図II-1・表II-4参照)、二学期からの授業への集中度もさしてまざなかつた(表II-4参照)。つまり、勉強ははしていてもこの一年間の授業に

対しては消極的態度をとっていた。しかし、受験に好結果をもたらさなかつたという事実と直面して、やっと筆者ら現場の教師たちが言っている「授業を大事にしろ」が実感として理解できた表れではないだろうか。

属性別にみると、第一志望合格進学者や国公立大・四年制私立大入学者が全項目で反省を伴うことが少ないので低い数値を示している。これは、当然といえば当然で、好結果からくる自分のやってきた受験勉強に対する自信の表れであろう。それに対して第二志望以下で進学した者、合格したが浪人した者、一つも合格せず浪人した者、短大・専門・専修学校入学者、予備校に入学した者が高い数値を示していることは、受験に対する失敗感の裏返しといえよう。とくに短大・専門・専修学校に入学した生徒にその傾向が強いようである。

(2) 高校生活を充実させるために  
なすべきことは？

表II-6は、「この一年間をふりかえって、高校生活を充実させるためにもっと打ち込んでおけばよかったものは何か」という問いに対する集計である。学校生活における今までの多くのアンケート結果では、友人関係に高い関心を示す一方、授業など教育機関としての機能にはあまり高い評価を与えていない生徒たちが多かった。ところが、ここで「受験勉強をもっとやっておくべきだった」という項目が6割を超えている。これは、受験が一段落したという時期的な問題も考慮しなければならぬと思う。しかしその一方で、進学校の生徒にとって受験を抜きにしては高校生活の充実は考えられないという気持ちを代弁

したもののという見方も成り立ちうる。

さらに、受験勉強のなかには表II-5で見た受験用の問題集や参考書をやることとならんで、学校の授業や補習も含まれている。つまり、学校教育の教育機関としての機能を皮肉なことに最後の時点で強く認めているのである。

つぎに、学校教育のもう一つの側面である特別活動については生徒たちは、部活動(40%)、学園祭(34%)などの学校行事に熱中すればよかったという生徒が少なくない。しかし、生徒会に打ち込めばよかったという生徒は、2割にとどまっている。そうした生徒会への評価はともかく、部活動などについて、高校のはじめからこういう気持ちをもっていたならば、学校がもっと活性化していると考えるのは筆者だけだろうか。

表II-6 高校生活を充実させるために何をすべきか  
— 受験勉強をもっとすべきだった —

| 項目                         | 属 性<br>全 体 | 性 別  |      | 進 学 ・ 浪 人 別   |                   |             |                 | 進 学 先 別     |                 |                   |       |
|----------------------------|------------|------|------|---------------|-------------------|-------------|-----------------|-------------|-----------------|-------------------|-------|
|                            |            | 男 子  | 女 子  | 合 格 一 志 望 学 校 | 下 第 二 志 望 学 校 以 下 | 浪 入 格 じ た が | せ づ ち も 浪 入 合 格 | 入 国 学 公 立 大 | 大 四 年 制 私 立 大 学 | 専 修 大 入 学 専 門 学 校 | 予 備 校 |
|                            |            |      |      |               |                   |             |                 |             |                 |                   |       |
| 受験勉強をもっとやっておくべきだった         | 63.5       | 64.3 | 61.6 | 49.0          | 65.3              | 78.9        | 72.4            | 54.5        | 57.1            | 64.2              | 74.9  |
| 読書やスポーツをもっとやっておくべきだった      | 58.9       | 60.2 | 56.2 | 61.5          | 51.6              | 57.9        | 63.4            | 55.5        | 57.3            | 62.3              | 63.6  |
| 級友や部活動の友人ともっと友情を深めておくべきだった | 46.5       | 48.6 | 41.5 | 51.8          | 45.3              | 55.3        | 43.5            | 48.5        | 48.8            | 43.4              | 46.7  |
| 部活動をもっと続けておくべきだった          | 40.0       | 40.8 | 38.0 | 39.7          | 37.4              | 37.8        | 42.2            | 41.6        | 37.4            | 41.5              | 41.1  |
| 学園祭にもっと熱中しておくべきだった         | 33.7       | 35.4 | 29.0 | 37.3          | 29.0              | 34.2        | 34.1            | 39.6        | 31.6            | 26.4              | 35.9  |
| 生徒会・委員会活動にもっと積極的に参加すべきだった  | 20.4       | 21.4 | 18.1 | 20.1          | 16.4              | 15.8        | 24.4            | 14.8        | 20.1            | 13.2              | 22.6  |
| 家族との団らんをもっとしておくべきだった       | 11.4       | 10.4 | 14.0 | 17.6          | 8.9               | 8.1         | 9.8             | 10.7        | 12.3            | 19.2              | 9.5   |

○ = 各属性中の最高値

とても  
そう思う

少し  
そう思う

どちらとも  
いえない

あまり  
そう思わない

まったく  
そう思わない

(%)

性別に着目すると、ほとんどの項目で男子が女子を上回っている。これは、女子に比して男子のほうが受験のためと称して特別活動などをさせていた者が多いためと思われる。属性別では、受験にほぼ好結果を得た第一志望合格進学者や国公立大入学者に部活動や学園祭に消極的であった者が多かったことが読みとれる。しかし、浪人グループも部活動や学園祭に概して高い数値を示している。ここからは、部活動や学園祭に熱中したからといって受験にストレートに影響するものでもないということを物語っている。

### (3) 受験を終わった今、何をやりたいか

最後に、「受験が一段落した今、思いっきりやりたいと思っていることは何ですか」と問うてみた。図II-3はその集計結果である。11項目中、「一日中テレビをみてみたい」(33%)と「家族といっしょに食事をしたい」(20%)以外の9項目はすべて半数以上の生徒が思いっきりやりたいと思っている。

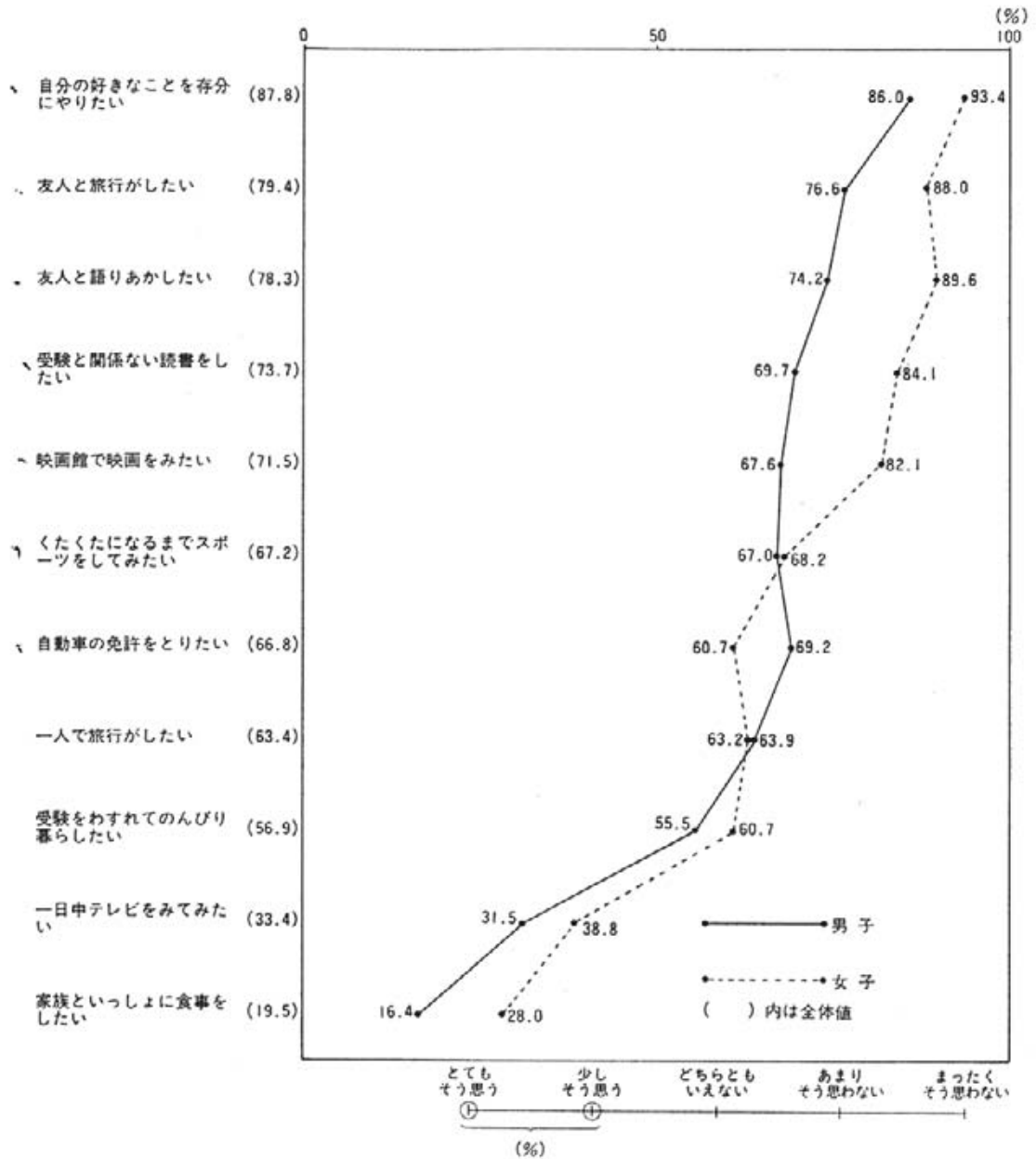
「自分の好きなことを存分にやりたい」という項目が9割近くを占めたことは、ほとんどの生徒が受験のためにこの一年間なんらかのものを犠牲にしたりがまんしたりしてきたことを如実に示している。具体的に今やりたい最大のものは、一人で旅行する(63%)よりも友人と旅行し(79%)、語りあかしたい(78%)

というのである。生徒たちにとって最も大切な友人関係を再確認したいという願望であろう。これは、最近クラス単位などでの「卒業旅行」と称する私的な旅行が密かに、しかしなかば公然と行なわれるようになった背景と呼応しているのではないだろうか。

「自動車の免許をとりたい」(67%)という数値が高いのは、最近のモータリゼーションの発達と連動しているが、それとならんで筆者らの受験生時代も同様であった読書や映画も根強い支持を得ている。一方、「受験をわすれてのんびり暮らしたい」(57%)が予想以上に低いのは、今からまさに受験がはじまるという浪人生が回答者の43%いるという現実と関連しているのではないだろうか。また、「テレビをみたい」(33%)が思ったより低いのは、全くテレビをみず受験勉強一本やりというのでなく、みたい番組をある程度決めて、視聴していたためとも思われる。

性別で見ると、女子のほうが願望率が高いのは受験のために犠牲にし、がまんしてきたことが多かったからと、男子に浪人が多いことの反映と想像するがどうだろうか。また、図表は省略したが、合格進学した者と浪人した者とをくらべると、浪人した者の願望率が一律に低いのは、浪人生にとっては受験は一段落していないという意識が投影していると思われるのである。

㊦ 図II-3 受験が終わった今、何をやりたいか  
 ——好きなことを存分にやりたい——



## 第III章 どんな基準で進路を選んだのか



### 1. 進学関係の情報利用

#### (1) 情報化の渦

進路指導というと、進学関係の雑誌や大学紹介の単行本などを思いおこす。しかし、テレビ、ラジオなどのマスメディアが普及し、高校生に欠かせない新しい情報源も加わりつつある。しかも、それらの情報内容は、質、量とも増大し、とくに印刷物によるものは調査もくわしく、親切になってきている。

さらに、情報化という意味では、大学の自校紹介のパンフレットの充実にも隔世の感を受ける。共通一次実施や進学熱の高まりは受験産業の発展を促し、それらの情報は大学のランク付けをより正確にしてきた。そして、これらの大部分は受験生にとって大学決定にあたっての有力な資料として定着している。こうした外部状況の変化は、当然高校にも波及し、

それぞれの高校でも独自の資料作成を工夫し進路決定に役立てようと努力をしている。

しかし、膨大な時間と労力を注ぎこんで作成した資料であっても、生徒一人ひとりの立場からすると、その予測にある程度の誤差が生じるのはやむをえない。毎年、生徒の合否をめぐる番狂わせが出るのはその一つの表れであろう。進路を選択するには、大学の難易度、行きたい学科の決定、職業の将来性有望度など、いずれも不確定要素をかかえている。そこに、決断するまでにゆれ動く人の心の悩みがあり、相談しても意見が一致しにくい部分が存在する。「現在、大学の評価は、いつも第三者の評価、外からの評価でしかない。一般的に言えば、現在では受験産業が決めたランキングと、就職の実績、企業

から見た学校のランキング、これらが大学の評価になっている」(第21回大学教員懇談会より)と報告されているように、大学自体もその評価を外部に依存せざるをえないのが実態である。

この中で、どんな情報がどの程度、どの部分で利用されているかを調査することにした。

## (2)情報の利用度について

まず、図Ⅲ-1から何をどう情報として利用してきたかを尋ねてみよう。

### 1. 約50%の利用度のある情報

|                    | (順位)        |           |
|--------------------|-------------|-----------|
|                    | 学部学科<br>の決定 | 大学の<br>決定 |
| ① 進学に関する単行本や雑誌     | 1           | 1         |
| ⑤ クラスメイトとの会話       | 2           | 5         |
| ⑩ 高校の先生の話          | 3           | 4         |
| ⑫ 大学当局発行のパンフレット類   | 4           | 3         |
| ⑮ 校外模試の結果          | 5           | 2         |
| ⑬ 高校作成の進路指導資料      | 6           | 6         |
| 2. 20%以下の利用度しかない情報 |             |           |
| ⑨ 小中学校時代の友人との会話    | 12          | 12        |
| ② テレビ・ラジオの番組       | 13          | 14        |
| ⑭ 大学主催の説明会         | 14          | 13        |
| ⑧ 小中学校時代の先生の話      | 15          | 15        |

以上のように、大学決定や学部学科決定にこの2つの項目は連動していることがわかる。つまり、利用されるときは両方が同じくらいの利用度を示しているが、よくみると、図Ⅲ-1の「校外模試の結果」はどちらかというとうち大学決定に用いられる傾向が高い。このような視点から、情報の種類を a. 「電波・印刷物などによる情報」、b. 「直接人間関係からの情報」とにわけて、それらが大学決定、学部・学科決定のどちらに用いられているかを調べてみた(図Ⅲ-2)。これを参考にして、高3生56名に聞き取り調査をした結果を分類してみると次のようになる。

(○数字は図Ⅲ-1の項目番号)

○大学の難易度研究 ①、⑮、⑬

○大学の内容研究 ⑫、①、⑩、⑤、

③、⑧、④

○入試の出題傾向の研究①、⑤、⑪、⑩

○全般の情報交換 ⑤、⑥

○将来の職業と関係学科①、⑫、③、⑧、

④

以上から明らかになったのは、つぎの通りである。

1. 収集したい内容により単行本や大学のパンフ、友人との話などの情報を使いわけている。

2. 高校や友人など、自分の身近な生活の場から得ている情報が多い。

3. しかし、利用される情報の種類は図Ⅲ-1の上位数項目に限定されている。

こうした選択について、男女差があるかどうかを調べたのが図Ⅲ-3、図Ⅲ-4であるが、性による開きは、さほど大きくはない。しかし、両親や知人からの話(③、④、⑧)がいずれも男子より女子のほうが高い率を示したことは、人間関係から情報を得ているためといえよう。いいかえれば、女子のほうが両親、担任、年長の人と相談をする割合が多いということを暗示している。

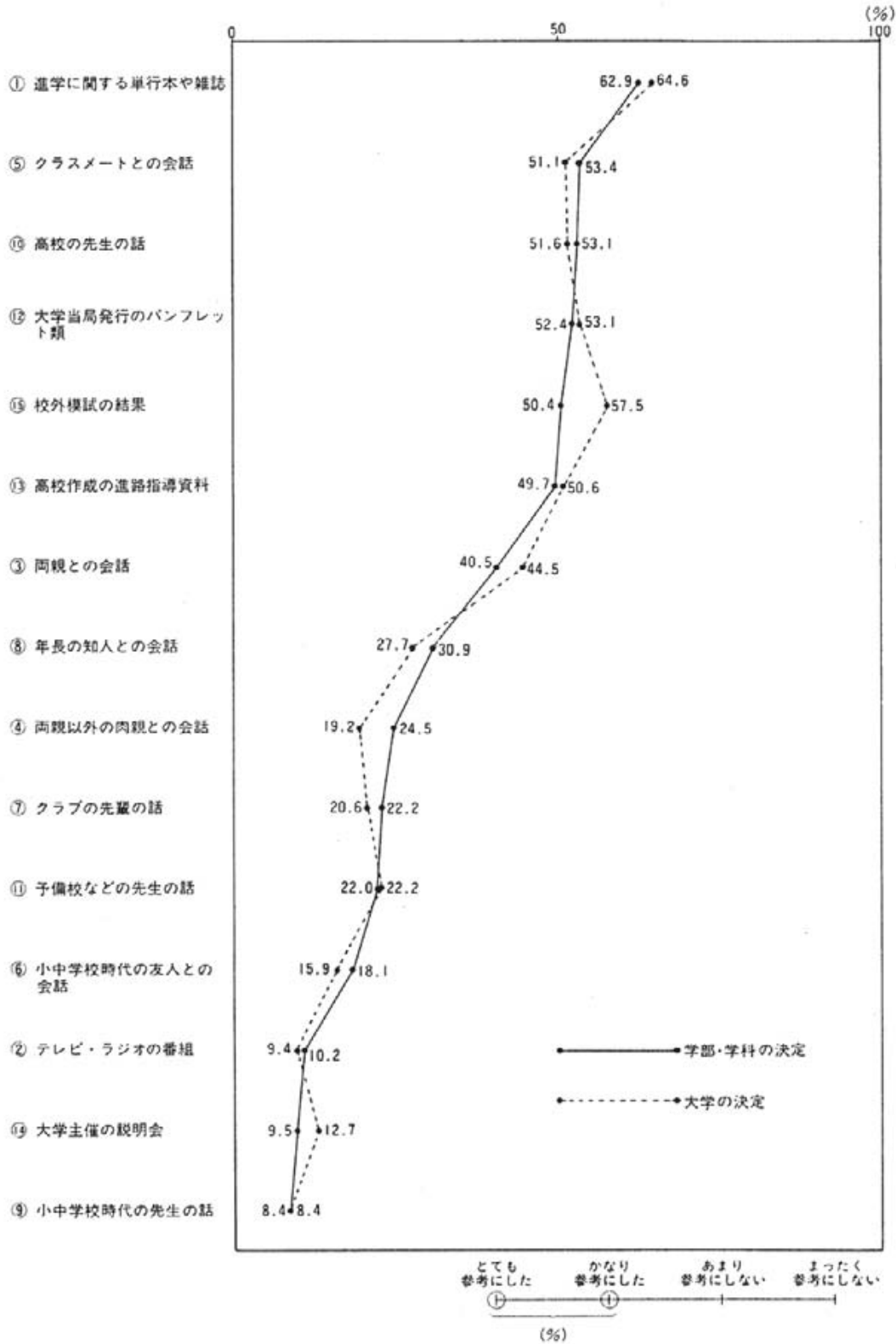
全体として、大学の内容や学科の性質についてはよく研究しているとの印象を受ける。この結果は、図Ⅲ-5に示された「学部・学科の内容はよく知っているか」の設問に対し89%の生徒が「よく知っている、少しは知っている」と答えている数値とよく合致する。しかし、この知っているという深さについては、生徒がそう思っているだけで客観的には必ずしも楽観できない部分を含んでいる。この気づかきを裏付けるものとして、つぎのような報告がある。

「大学生の約10%が学生相談にくるが、その中で多いのは、転部・転科・再受験の相談でその理由は、授業が始まったとたんに、「これは自分のやりたいものではない」、「本当にやりたいものがわからない」という相談である」といったものである。(大学教員懇談会レポートより)



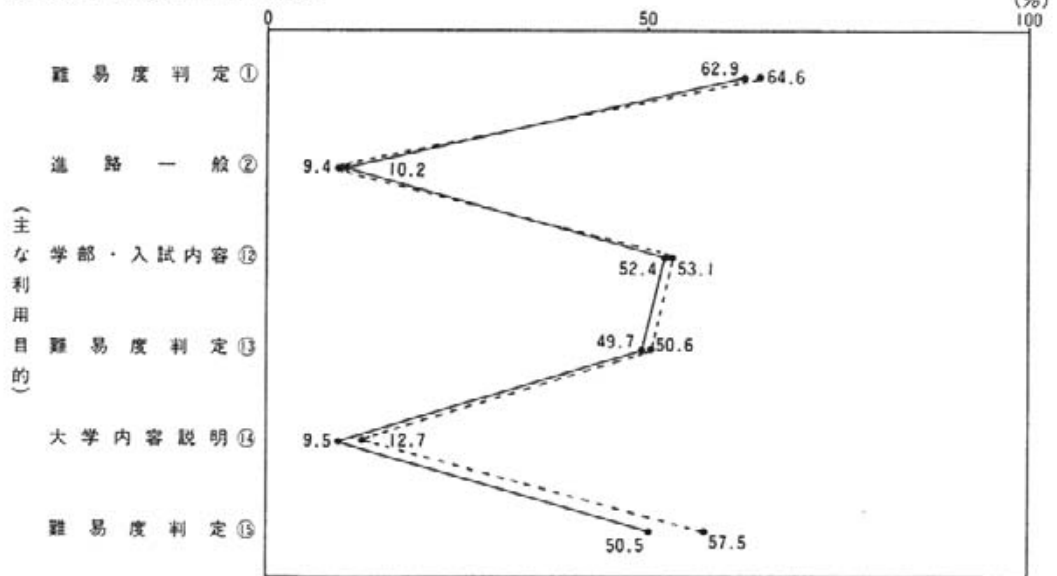
図III-1 何を参考にしたか

——単行本と友だち——

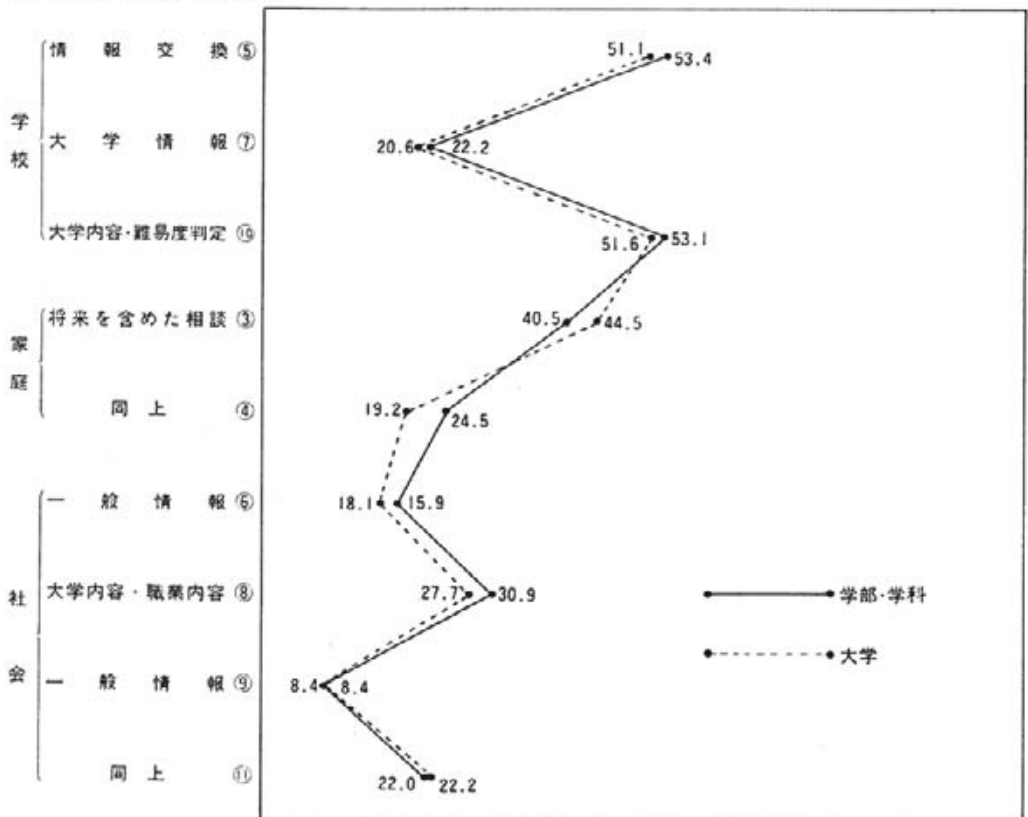


図III-2 情報を種類わけにしたときの調査項目の割合

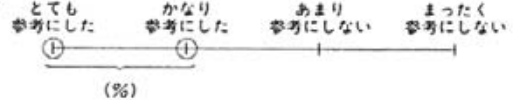
a. 電波・印刷物などによる情報



b. 直接人間関係からの情報

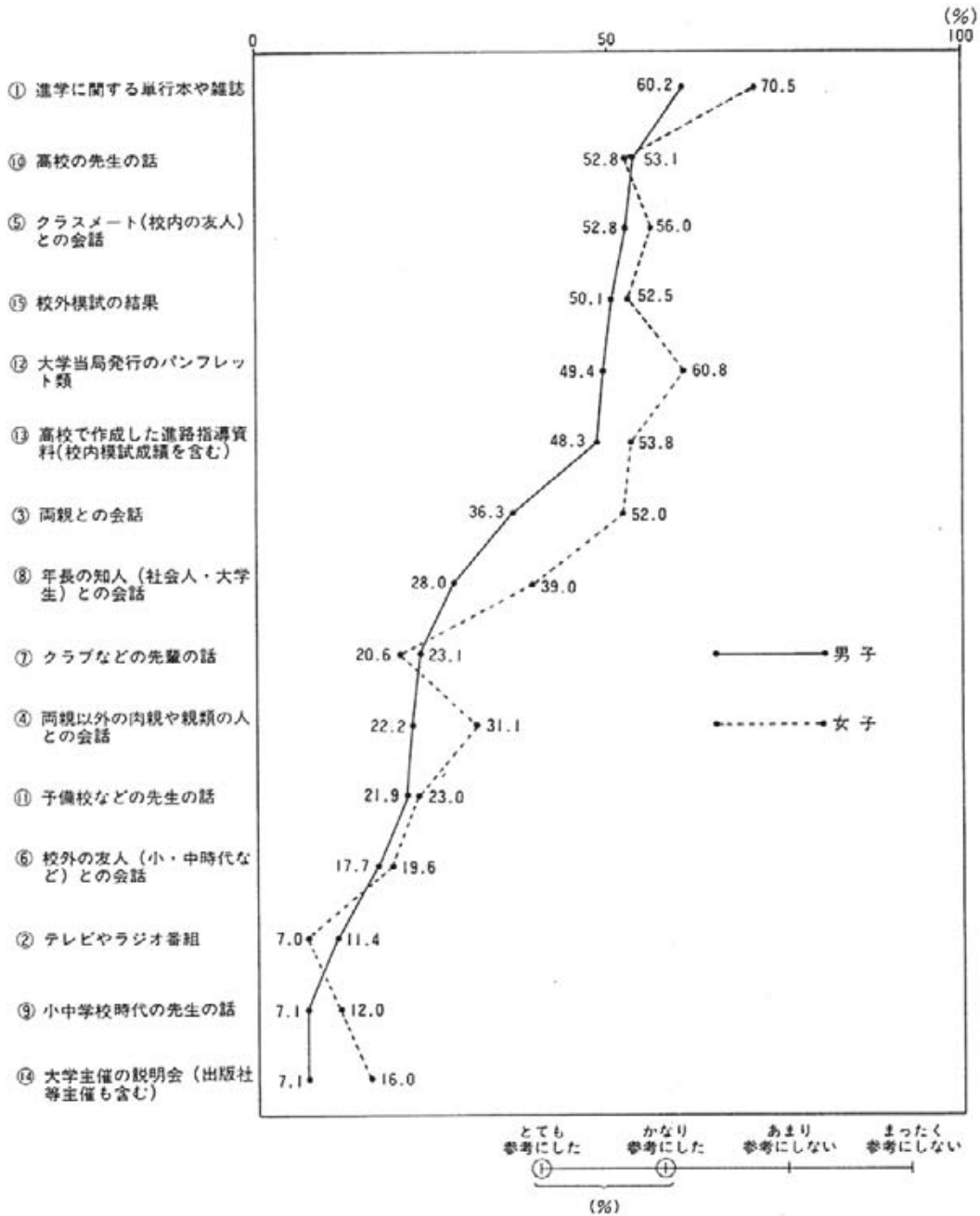


○内の数字は図III-3に類する



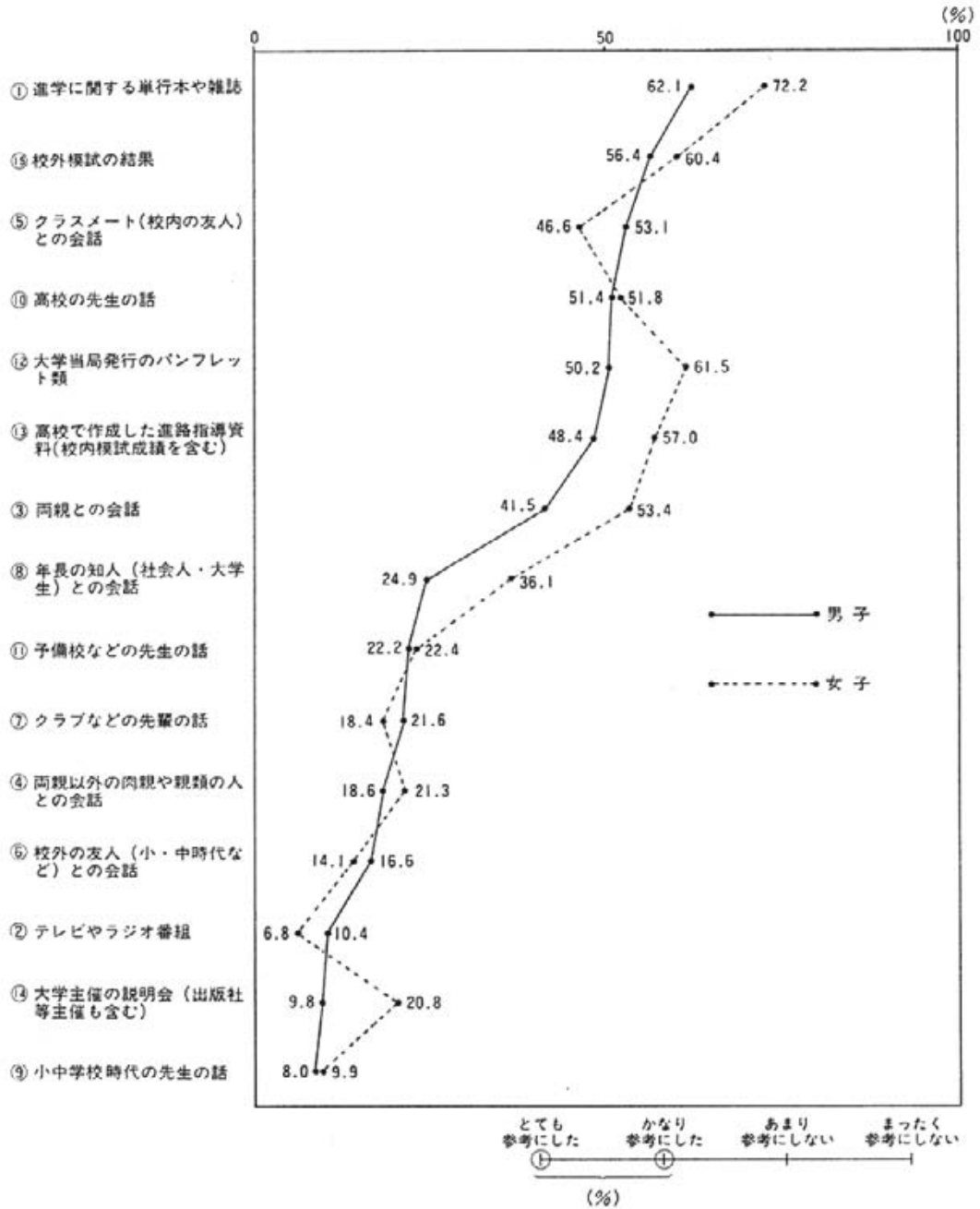
図III-3 大学を決めるにあたって何を参考にしたか(性別)

—あまり差はない—



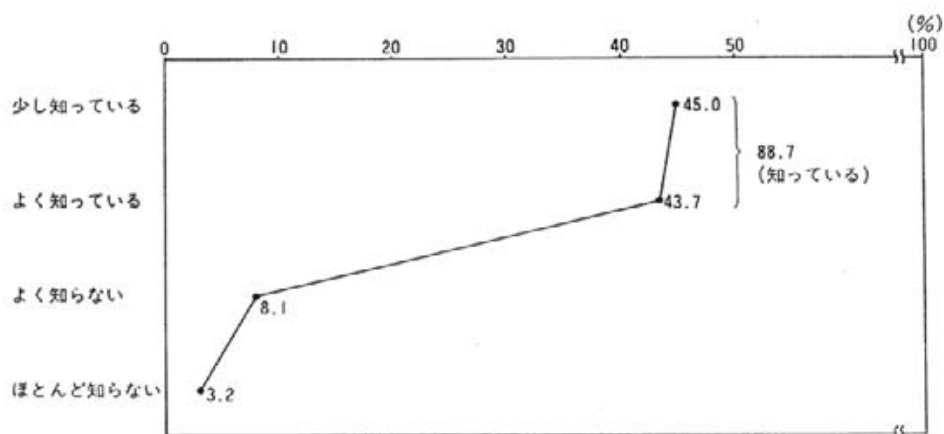
図III-4 学部・学科を決めるにあたって何を参考にしたか(性別)

—あまり差はない—



図Ⅲ-5 学部・学科の内容について、具体的に知っているか

——知っているつもり——



### (3) 志望大学が決まるまでに

——当事者間の意見調整は——

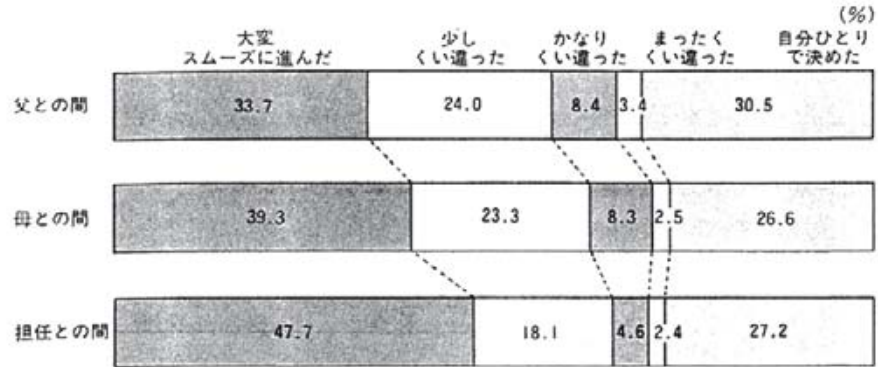
進路指導とは、不確定要素にとりかこまれた中から一つの方針を確立することで、しかもその決定は、大げさにいえば将来を定めることにもなる。したがって、大学入試は、やはり人生にとって大切な別れ道で、それなりの悩みも多かろう。その中であって生徒たちは、両親、担任の先生とどのように将来の道を話し合ったのだろうか。図Ⅲ-6、図Ⅲ

- 7 は志望大学決定までの進みかたを示したもので、いずれの人たちとの間でも約30%の生徒が独自で決定したとし、「大変スムーズに進んだ」のは34~48%と3分の1から2分の1の生徒が問題なく進路を決定していた。残りの約20~30%は、くい違いを起こしている。

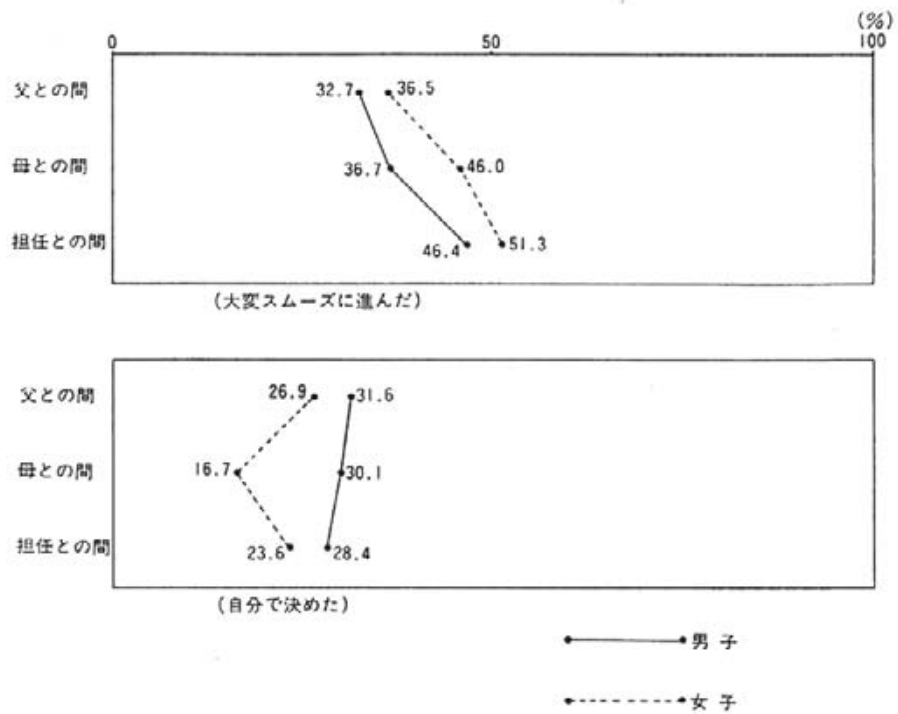
以上を男女別に比較してみると図Ⅲ-7のようになり、女子は男子にくらべ「自分で決めた」割合は少なく「大変スムーズに進んだ」の割合は高い。……ということは親まかせ、人まかせという面がないでもない。

図III-6 おとなとの話し合い

—わりとスムーズ—



図III-7 おとなとの話し合い×性別



## 2. 進路を決める際の基準

### (1)文系と理系

それでは、生徒たちは、どういう基準で、進学先を決めたのであろうか。まず、全体としての傾向を図Ⅲ-8に示した。

- 1位 仕事に役立つ知識を身につけたい
- 2位 資格をとりたい
- 3位 学生生活を楽しみたい

つまり、学生生活を楽しみたいのはたしかだが、それ以上に、仕事に役立つ知識や資格を考えて、進路先を決めたという反応である。

なんといっても、現代は資格社会であるから、学生生活の楽しさよりも、その大学へ入って取得できる資格を考えて進学先を選んだというのは十分に納得できよう。

そこで、そうした進路選択が受験のパターンにより、異なるかどうかを、表Ⅲ-1に示してみた。

表中の数値があらばりを示しているので、

さらにまとめてみよう。

|             | 理系 | 文系 | 全体 |
|-------------|----|----|----|
| 仕事に役立つ      | 1位 | 1位 | 1位 |
| 資格をとる       | 3位 | 2位 | 2位 |
| 学生生活を楽しむ    | 7位 | 3位 | 3位 |
| 就職に有利       | 4位 | 4位 | 4位 |
| 最先端の科学にふれたい | 2位 | —  | 5位 |

理科系の志望者は、さすがに「最先端の科学にふれたい」という希望が強く、「学生生活を楽しむ」は7位にとどまっている。それに対し、文系は、

- 5位 社会機構、経済
- 6位 外国語、外国文化
- 9位 人生哲学
- 10位 対人接触

となっており、人間についての関心が文系志望者の気持ちによこたわっているのがわかる。

○ 図III-8 進学先選択要因

——仕事に役立つ知識を身につけたい——

|                                      | とても考慮した |      | 少し考慮した |      | (%)  |      |
|--------------------------------------|---------|------|--------|------|------|------|
|                                      | 2.7     | 4.1  | 7.3    | 2.7  | 4.1  | 4.1  |
| 将来の仕事に役立つ知識や技術を身につけたい                | 62.6    | 86%  | 23.3   | 7.3  | 2.7  | 4.1  |
| 資格をとりたい                              | 38.4    | 66   | 27.6   | 15.8 | 6.7  | 11.5 |
| 学生生活を楽しまたい                           | 35.2    | 64   | 31.1   | 17.4 | 7.9  | 8.4  |
| 就職や就職後の昇進に有利である                      | 33.4    | 62   | 28.3   | 19.2 | 8.6  | 10.5 |
| 現代の最先端のことを学びたい                       | 28.4    | 53   | 24.5   | 22.4 | 11.4 | 13.3 |
| 自分の日常生活に関係あるものに関心が強い                 | 22.9    | 54   | 30.8   | 25.4 | 10.8 | 10.1 |
| 人と話したり接触するのが好きである                    | 20.5    | 27.7 | 33.4   | 7.9  | 10.5 |      |
| 社会のしくみや動きに関心がある                      | 20.4    | 26.2 | 24.7   | 14.8 | 13.9 |      |
| 就職と関係なく教養を高めたい                       | 18.7    | 24.0 | 35.6   | 9.8  | 11.9 |      |
| 物を作ったりこまかいことをこつこつやるのが好きである           | 17.6    | 23.3 | 23.1   | 16.7 | 19.3 |      |
| 自然界のさまざまな現象や生物に興味がある                 | 17.2    | 18.3 | 23.5   | 16.0 | 25.0 |      |
| 物の原理や数学のようなものを理論的に追究したりするのが好きである     | 17.2    | 18.6 | 17.7   | 14.1 | 32.4 |      |
| 外国語や外国の文化に強い関心がある                    | 16.5    | 15.4 | 22.2   | 18.8 | 27.1 |      |
| 人間とか人生について考えてみたい                     | 16.4    | 26.1 | 27.1   | 13.5 | 16.9 |      |
| 将来、生活が豊かになる                          | 16.3    | 25.2 | 32.8   | 12.5 | 13.2 |      |
| 将来、独立・自営ができる                         | 15.3    | 16.9 | 30.5   | 14.8 | 22.5 |      |
| 人に奉仕できるようなことをしたい                     | 13.8    | 20.6 | 35.0   | 13.5 | 17.1 |      |
| 生活費を稼ぐためアルバイトする必要がある                 | 11.1    | 15.3 | 26.1   | 17.8 | 29.7 |      |
| 身体を動かすことが好きである                       | 10.4    | 18.5 | 30.4   | 15.0 | 25.6 |      |
| 数字を扱うようなこまかいことが得意である                 | 10.2    | 19.5 | 23.2   | 14.1 | 33.0 |      |
| 文章を読んだり書いたりすることが好きである                | 9.8     | 15.8 | 22.1   | 19.4 | 32.9 |      |
| 音楽とか絵画といった芸術的なものにひかれる                | 8.8     | 15.0 | 26.5   | 15.6 | 34.1 |      |
| カッコいい学科がある                           | 8.2     | 11.7 | 26.7   | 15.9 | 37.5 |      |
| わずらいしい対人関係より、一人で本を読んだり実験したりする方が好きである | 6.3     | 13.2 | 28.9   | 19.5 | 32.1 |      |
| 大学でスポーツ・クラブ活動にうちこめる                  | 5.7     | 13.6 | 23.9   | 18.1 | 38.7 |      |
| 教師と面接相談の結果                           | 3.3     | 16.9 | 19.6   | 17.9 | 42.3 |      |
| 親の仕事将来継ぐために必要である                     | 3.0     | 11.1 | 9.3    | 72.5 |      |      |
| 親兄弟のすすめがあった                          | 2.5     | 15.5 | 12.3   | 17.8 | 51.9 |      |
| 適性検査の結果                              | 2.0     | 11.3 | 16.0   | 15.0 | 55.7 |      |
| 親しい友人が同じコースを選んだ                      | 6.7     | 8.7  | 15.3   | 68.1 |      |      |

1.2



表III-1 進学先選択要因×受験系統

—「とても考慮した」の割合が15%以上のもの—

(%)

| 進学先選択要因                              | 受験系統 |      | 不統一系受験者部 |      | 統一系受験者部 |      | 不統一系受験者部 |      | 統一系受験者部 |      | 全体 | 順位   |   |
|--------------------------------------|------|------|----------|------|---------|------|----------|------|---------|------|----|------|---|
|                                      | 順位   | 割合   | 順位       | 割合   | 順位      | 割合   | 順位       | 割合   | 順位      | 割合   |    |      |   |
| 将来の仕事に役立つ知識や技術を身につけたい                | ①    | 67.2 | ①        | 66.0 | ①       | 61.6 | ①        | 57.7 | ①       | 52.6 | ①  | 62.6 | ① |
| 現代の最先端のことを学びたい                       | ②    | 46.4 | ②        | 62.0 | ②       |      |          |      | ④       | 21.1 |    | 28.4 | ⑤ |
| 資格をとりたい                              | ③    | 35.8 | ④        | 40.0 | ④       | 45.5 | ②        | 35.0 | ④       | 21.1 | ④  | 38.4 | ② |
| 就職や就職後の昇進に有利である                      | ④    | 35.5 | ⑤        | 34.0 | ⑤       | 32.0 | ④        | 36.4 | ③       | 15.8 | ⑯  | 33.4 | ④ |
| 物の原理や数学のようなものを理論的に追究したりするのが好きである     | ⑤    | 33.2 | ⑦        | 24.0 | ⑦       |      |          |      |         |      |    | 17.2 | ⑪ |
| 物を作ったり、こまかいことをこつこつやるのが好きである          | ⑥    | 31.7 | ⑧        | 22.4 | ⑧       |      |          |      |         | 21.1 | ④  | 17.6 | ⑱ |
| 学生生活を楽しまたい                           | ⑦    | 29.8 | ⑤        | 34.7 | ⑤       | 35.9 | ③        | 48.6 | ②       | 26.3 | ③  | 35.2 | ③ |
| 自然界のさまざまな現象や生物に興味がある                 | ⑧    | 25.7 | ③        | 46.0 | ③       |      |          |      |         | 31.6 | ②  | 17.2 | ⑪ |
| 自分の日常生活に関係のあるものに関心が高い                | ⑨    | 22.6 | ⑨        | 22.0 | ⑨       | 24.2 | ⑦        | 20.3 | ⑱       | 15.8 | ⑱  | 22.9 | ⑥ |
| 数字を扱うようなこまかいことが得意である                 | ⑩    | 18.9 |          |      |         |      |          |      |         | 15.8 | ⑱  | 10.2 | ⑳ |
| 人と話したり接触したりするのが好きである                 | ⑪    | 16.3 | ⑩        | 18.0 | ⑩       | 20.2 | ⑱        | 27.3 | ⑦       | 21.1 | ④  | 20.5 | ⑦ |
| 将来、生活が豊かになる                          | ⑫    | 15.9 |          |      |         | 18.7 | ⑪        | 18.2 | ⑪       |      |    | 16.3 | ⑱ |
| 就職と関係なく教養を高めたい                       | ⑬    | 15.1 |          |      |         | 23.7 | ⑧        | 23.1 | ⑨       | 15.8 | ⑱  | 18.7 | ⑨ |
| 人に奉仕できるようなことをしたい                     |      |      | ⑩        | 18.0 | ⑩       | 15.7 | ⑬        | 16.1 | ⑬       | 15.8 | ⑱  | 13.8 | ⑰ |
| カッコいい学科がある                           |      |      | ⑫        | 16.3 | ⑫       |      |          |      |         |      |    | 8.2  | ㉓ |
| 社会のしくみや動きに関心がある                      |      |      |          |      |         | 31.8 | ⑤        | 32.9 | ⑤       | 21.0 | ⑨  | 20.4 | ⑧ |
| 外国語や外国の文化に強い関心がある                    |      |      |          |      |         | 28.3 | ⑥        | 29.4 | ⑥       | 15.8 | ⑱  | 16.5 | ⑬ |
| 人間とか人生について考えてみたい                     |      |      |          |      |         | 22.2 | ⑨        | 24.5 | ⑧       |      |    | 16.4 | ⑭ |
| 文章を読んだり書いたりすることが好きである                |      |      |          |      |         | 18.7 | ⑪        |      |         |      |    | 9.8  | ㉒ |
| 将来、独立・自営ができる                         |      |      |          |      |         | 15.7 | ⑬        | 17.5 | ⑫       |      |    | 15.3 | ⑱ |
| わずらわしい対人関係より、一人で本を読んだり実験したりする方が好きである |      |      |          |      |         |      |          |      |         | 21.1 | ④  | 6.3  | ㉔ |
| 生活費を稼ぐためアルバイトをする必要がある                |      |      |          |      |         |      |          |      |         | 15.8 | ⑱  | 11.1 | ⑲ |

(2) 学部選択

そこで、文系と理系の分類では大まかすぎるので、もう少しこまかく、学部により、進路選択が異なるかどうかを、表Ⅲ-2、表Ⅲ-3に掲げてみた。

○数字は1~3の項目ごとの順位

1. 仕事に役立つ 2. 資格をとる 3. 学生生活を楽しく

|        |      |      |      |
|--------|------|------|------|
| 医・歯・薬系 | ①95% | ②86% | 41%  |
| 家政・芸術  | ②92% | ③75% | 33%  |
| 法・経・商  | ③89% | 69%  | ③72% |

|       |      |      |      |
|-------|------|------|------|
| 教員養成  | ④89% | ①89% | ②72% |
| 理・工   | 87%  | 62%  | 65%  |
| 農・水産  | 83%  | ④75% | ④67% |
| 文・外国語 | 80%  | 63%  | ①77% |

上記のようになるが、これをさらに圧縮するなら

{ 仕事に役立つ知識—医学部  
資格をとりに —教育学部  
学生生活を楽しく—文学部

のようになろう。もちろん、生徒たちの学部選択が、どの程度、たしかなものかは明らか

表Ⅲ-2 進学先選択要因 —理系学部志望者・学部間の差別—

(%)

| 主な受験学部                           | 理・工            |                |        | 医・歯・薬          |                |        | 農・水産           |                |        |
|----------------------------------|----------------|----------------|--------|----------------|----------------|--------|----------------|----------------|--------|
|                                  | A<br>とても<br>考慮 | B<br>かなり<br>考慮 | A+B    | A<br>とても<br>考慮 | B<br>かなり<br>考慮 | A+B    | A<br>とても<br>考慮 | B<br>かなり<br>考慮 | A+B    |
| 将来の仕事に役立つ知識や技術を身につけたい            | 64.7           | 22.0           | (86.7) | 77.5           | 17.5           | (95.0) | 62.5           | 20.8           | (83.3) |
| 現代の最先端のことを学びたい                   | 52.3           | 25.6           | (77.9) | 17.5           | 52.5           | 70.0   | 37.5           | 16.7           | 54.2   |
| 資格をとりたい                          | 31.4           | 30.7           | 62.1   | 60.5           | 25.0           | (85.5) | 37.5           | 37.5           | 75.0   |
| 就職や就職後の昇進に有利である                  | 34.8           | 26.5           | (61.3) | 27.5           | 25.0           | 52.5   | 25.0           | 29.2           | 54.2   |
| 物の原理や数学のようなものを理論的に追求したりするのが好きである | 37.1           | 32.6           | (69.7) | 12.5           | 45.0           | 57.5   | 8.3            | 25.0           | 33.3   |
| 物を作ったり細かいことをこつこつやるのが好きである        | 31.8           | 33.7           | (65.5) | 20.5           | 30.8           | 51.3   | 20.8           | 16.7           | 37.5   |
| 学生生活を楽しまたい                       | 33.3           | 31.8           | 65.1   | 5.1            | 35.9           | 41.0   | 33.3           | 33.3           | (66.6) |
| 自然界のさまざまな現象や生物に興味がある             | 25.8           | 25.0           | 50.8   | 35.0           | 37.5           | 72.5   | 70.8           | 12.5           | (83.3) |
| 自分の日常生活に関係のあるものに関心が強い            | 23.5           | 29.2           | 52.7   | 17.5           | 37.5           | (55.0) | 12.5           | 41.7           | 54.2   |
| 数字を扱うような細かいことが得意である              | 20.5           | 34.5           | (55.0) | 5.0            | 22.5           | 27.5   | 0.0            | 25.0           | 25.0   |

○=80%以上のもの学部系統1位のもの

でない。しかし、かれらなりに考えての進路選択であろう。

さらに、国立と私立との受験は、表Ⅲ-4の通りで、「学費の安さとやりたい分野がある」

が国立の魅力形づくっている。それに対し、私立大学は「伝統があり、将来の就職に役立ちそう」が、受験の動機となる。

表Ⅲ-3 進学先選択要因

— 文系学部志望者・学部間の差異 —

(%)

| 主な受験学部                | 法・経・商          |                |        | 文・外国語          |                |        | 教員養成           |                |        | 家政・芸術          |                |        |
|-----------------------|----------------|----------------|--------|----------------|----------------|--------|----------------|----------------|--------|----------------|----------------|--------|
|                       | A<br>とても<br>考慮 | B<br>かなり<br>考慮 | A+B    | A<br>とても<br>考慮 | B<br>かなり<br>考慮 | A+B    | A<br>とても<br>考慮 | B<br>かなり<br>考慮 | A+B    | A<br>とても<br>考慮 | B<br>かなり<br>考慮 | A+B    |
| 将来の仕事に役立つ知識や技術を身につけたい | 61.9           | 27.1           | (89.0) | 56.3           | 23.3           | 79.6   | 72.2           | 16.7           | (88.9) | 75.0           | 16.7           | (91.7) |
| 資格をとりたい               | 37.6           | 31.5           | 69.1   | 40.8           | 21.8           | 62.6   | 88.9           | 0.0            | (88.9) | 45.8           | 29.2           | 75.0   |
| 学生生活を楽しまたい            | 38.7           | 33.1           | 71.8   | 46.6           | 30.1           | (76.7) | 27.8           | 44.4           | 72.2   | 25.0           | 8.3            | 33.3   |
| 就職や就職後の昇進に有利である       | 40.6           | 31.7           | (72.3) | 27.9           | 30.6           | 58.5   | 33.3           | 16.7           | 50.0   | 20.8           | 25.0           | 45.8   |
| 社会のしくみや動きに関心がある       | 39.2           | 36.5           | (75.7) | 26.5           | 27.9           | 54.4   | 22.1           | 11.1           | 33.2   | 4.2            | 33.3           | 37.5   |
| 外国語や外国の文化に強い関心がある     | 18.8           | 19.3           | 38.1   | 43.5           | 21.1           | (64.6) | 0.0            | 16.7           | 16.7   | 0.0            | 12.5           | 12.5   |
| 自分の日常生活に関係のあるものに関心が高い | 21.5           | 32.0           | 53.5   | 23.1           | 30.6           | 53.7   | 38.9           | 33.3           | (72.2) | 41.7           | 20.8           | 62.5   |
| 就職に関係なく教養を高めたい        | 18.2           | 29.3           | 47.5   | 32.0           | 27.2           | (59.2) | 22.2           | 11.1           | 33.3   | 20.8           | 20.8           | 41.6   |
| 人間とか人生について考えてみたい      | 17.1           | 32.6           | 49.7   | 28.6           | 29.9           | (58.5) | 33.3           | 22.2           | 55.5   | 20.8           | 33.3           | 54.1   |
| 人と話したり接触したりするのが好きである  | 20.4           | 30.9           | 51.3   | 25.9           | 29.3           | 55.2   | 33.3           | 38.9           | (72.2) | 25.0           | 20.8           | 45.8   |
| 将来、生活が豊かになる           | 23.2           | 29.8           | (53.0) | 11.6           | 15.6           | 27.2   | 27.8           | 11.1           | 38.9   | 16.7           | 16.7           | 33.4   |
| 文章を読んだり書いたりすることが好きである | 6.6            | 18.8           | 25.4   | 27.9           | 29.3           | (57.2) | 0.0            | 55.6           | 55.6   | 4.2            | 16.7           | 20.9   |
| 人に奉仕できるようなことをしたい      | 13.8           | 21.5           | 35.3   | 14.3           | 17.0           | 31.3   | 44.4           | 38.9           | (83.3) | 25.0           | 25.0           | 50.0   |
| 将来、独立・自営ができる          | 19.9           | 19.9           | 39.8   | 13.6           | 17.7           | 31.3   | 27.8           | 16.7           | (44.5) | 16.7           | 16.7           | 33.4   |

○=80%以上及び学部系統1位のもの

表Ⅲ-4 国公立・私立大学別、受験の動機

—国立=安く・私立=伝統がある—

(%)

| 国公立大学受験者                           | (とても考慮<br>+<br>かなり考慮) | 私立大学受験者                           |
|------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 1位 学費が私立とくらべて安い                    | 87.1                  | 1位 自分のやりたい分野の研究ができる               |
| 2位 自分のやりたい分野の研究ができる                | 84.2                  | 2位 将来、就職に有利である                    |
| 3位 環境が良く、ゆったりして雰囲気が良い              | 68.0                  | 3位 伝統のある大学である                     |
| 4位 施設・設備が立派である                     | 62.7                  | 4位 環境が良く、ゆったりして雰囲気が良い             |
| 5位 将来、就職に有利である                     | 59.4                  | 5位 施設・設備が立派である                    |
| 6位 伝統のある大学である                      | 51.9                  | 6位 家から近く、通学に便利である                 |
| 7位 私立の経済的負担に耐えられない                 | 47.8                  | 7位 浪人はできない                        |
| 8位 自分のやりたいことはそこにしかない               | 43.7                  | 8位 都市の中心にあり、勉強、アルバイト・遊びのどれにも都合がよい |
| 9位 国公立の方が私立より格が上である                | 43.0                  | 9位 自分のやりたいことは、そこにしかない             |
| 10位 教授陣が優れ、有名な教授がいる                | 38.4                  | 10位 地方の国立大学より有名私立大学の方が良い          |
| 11位 家から近く、通学に便利である                 | 37.3                  | 10位 苦手科目があり科目数が多いと負担である           |
| 12位 浪人はできない                        | 34.4                  | 12位 教授陣が優れ、有名な教授がいる               |
| 13位 私立に落ちるかもしれない                   | 28.0                  | 13位 国公立大学に落ちるかもしれない               |
| 14位 家族や先生のすすめがある                   | 25.0                  | 14位 家族や先生のすすめがある                  |
| 15位 都市の中心にあり、勉強、アルバイト・遊びのどれにも都合がよい | 23.7                  | 15位 校友がたくさんおり、社会に出てから有利である        |
| 16位 学力が全体に平均していて共通一次も二次も自信があった     | 19.0                  | 16位 学生数の多いマンモス大学のほうがにぎやかで活気がある    |
| 17位 親兄弟などの出身校である                   | 6.7                   | 17位 推薦入学の制度がある                    |
| 18位 推薦入学の制度がある                     | 4.9                   | 18位 スポーツなどで有名である                  |
|                                    |                       | 19位 親兄弟などの出身校である                  |